



しずおかフィナンシャルグループ  
2023年度 中間決算ハイライト

2023年 11月

**Xover**  
— 新時代を拓く

# 2023年度中間決算の概要（連結）

	(億円、%)	2023年度 第2四半期	前年同期比※1	
			増減額	増減率
連結粗利益	2期連続増益	851	+39	+4.8
営業経費（△）		499	+15	+3.1
持分法投資損益		10	+7	+211.3
連結業務純益※2	2期連続増益	361	+19	+5.6
与信関係費用（△）		22	△20	△47.4
株式等関係損益		215	+122	+130.9
連結経常利益	2期連続増益	554	+165	+42.4
特別損益		△193	△193	—
税引前純利益		361	△28	△7.1
法人税等合計（△）		114	+7	+6.8
連結中間純利益※3	4期振り減益	248	△35	△12.2
ROE		4.3	△0.8	—

※1 2022年度第2四半期以前は静岡銀行連結決算

※2 連結業務純益＝静岡銀行単体業務純益＋連結経常利益－静岡銀行単体経常利益

※3 親会社株主に帰属する中間純利益

## 2023年9月実施 固定資産評価見直しによる中間決算への影響

影響額	影響控除後	要因
—	—	
△2	501	対象資産に関する減価償却費1カ月分が減少
—	—	・減価償却費 △4億円（2023年9月分） ・外形標準課税 2億円
+2	359	
—	—	
+150	65	将来の費用等を前倒しで一括計上するとともに、 政策投資株式の売却益を活用し、影響を極小化
+152	402	・株式等関係損益+150億円
△192	△1	・特別損失△192億円
△40	401	
+4	118	
△36	284	（見込：2023年度下半期減価償却費 △26億円）

【参考：上記要因除き】

	2023年度 第2四半期	前年同期比	進捗率 〔2023年5月 公表値対比〕
連結経常利益	402	+13	50.2
連結中間純利益	284	+2	50.7

# 主要グループ会社の業績

## 静岡銀行単体

	(億円、%)	2023年度 第2四半期	前年同期比	
			増減額	増減率
<b>業務粗利益</b>		774	+37	+5.0
資金利益		627	+5	+0.7
役務取引等利益		133	+22	+19.9
特定取引利益		4	△5	△56.7
その他業務利益		11	+16	△326.4
(うち国債等債券関係損益)		(22)	(+95)	(△129.2)
(うち外為売買損益)		(△16)	(△81)	(△124.6)
経費(△)		451	+11	+2.4
実質業務純益*		323	+26	+8.9
一般貸倒引当金繰入額(△)		△8	+6	△42.8
<b>業務純益</b>		<b>331</b>	<b>+20</b>	<b>+6.5</b>
臨時損益		194	+146	+304.9
うち不良債権処理額(△)		24	△29	△54.3
うち株式等関係損益		215	122	132.4
<b>経常利益</b>		<b>525</b>	<b>+166</b>	<b>+46.3</b>
特別損益		△207	△207	-
税引前中間純利益		318	△40	△11.2
法人税等合計(△)		98	+7	+8.0
<b>中間純利益</b>		<b>220</b>	<b>△48</b>	<b>△17.7</b>
与信関係費用(△)		16	△23	△59.1

\* 実質業務純益 = 業務純益 + 一般貸倒引当金繰入額

## 静岡銀行以外の主要グループ会社

	(億円)	静岡経営コンサルティング		静岡リース	
		2023年度 第2四半期	前年同期比	2023年度 第2四半期	前年同期比
<b>売上総利益</b>		<b>7</b>	<b>+2</b>	<b>16</b>	<b>△0</b>
経費(△)		6	+2	8	△1
<b>経常利益</b>		<b>2</b>	<b>△0</b>	<b>9</b>	<b>+1</b>
<b>中間純利益</b>		<b>1</b>	<b>△0</b>	<b>6</b>	<b>+1</b>
	(億円)	静岡キャピタル		静岡ティーエム証券	
		2023年度 第2四半期	前年同期比	2023年度 第2四半期	前年同期比
<b>売上総利益</b>		<b>3</b>	<b>△0</b>	<b>36</b>	<b>+1</b>
経費(△)		1	+0	26	+2
<b>経常利益</b>		<b>1</b>	<b>△0</b>	<b>10</b>	<b>△0</b>
<b>中間純利益</b>		<b>1</b>	<b>△0</b>	<b>7</b>	<b>△0</b>

## 主要グループ会社の取組状況

### 静岡経営コンサルティング

M&A等の着手件数は、引き続き増加基調。新たにJクレジット関連業務の取扱いを開始したほか、中途採用者の増員等により幅広い顧客ニーズへの対応力を強化

### 静岡リース

カーボンオフセットリースの取扱開始など、地域課題の解決に繋がるメニューを拡大。与信関係費用を中心とした経費の減少等もあり、損益面は堅調に推移

### 静岡キャピタル

ベンチャーファンドを通じたIPO投資や地域企業の事業承継支援に注力。2023年6月末に、名古屋銀行とのアライアンスファンド(総額5億円)を組成

### 静岡ティーエム証券

株式投信やラップ商品を中心にストック収益資産を拡大し、資産管理型ビジネスへの転換を志向。また、新NISA制度の開始を見据え、口座開設運動を重点的に展開

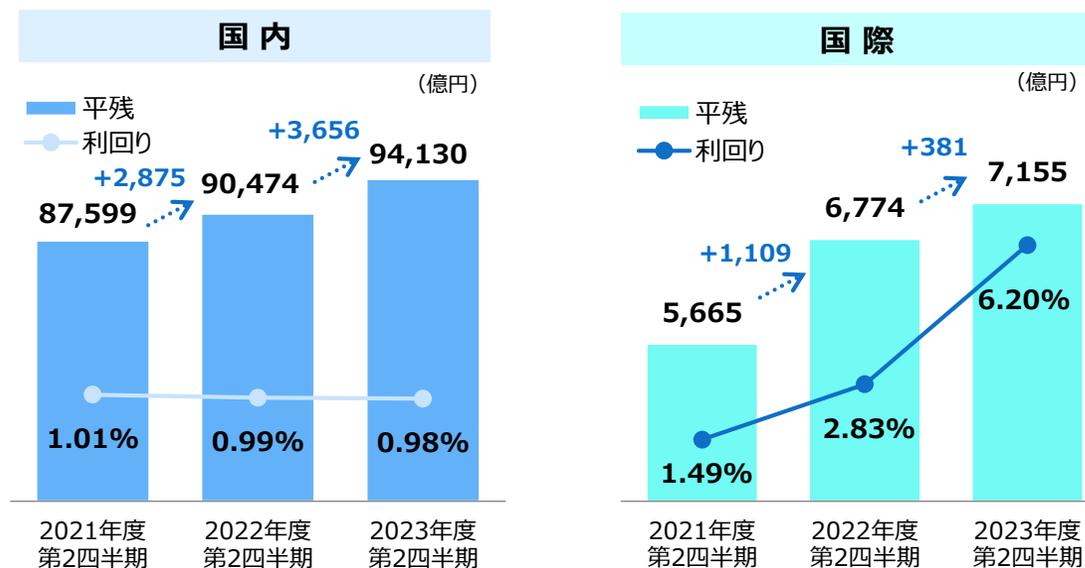
# 資金利益 (静岡銀行単体)

国内業務部門の順調な推移により国際業務部門の減少をカバーし、資金利益全体では増加基調を維持

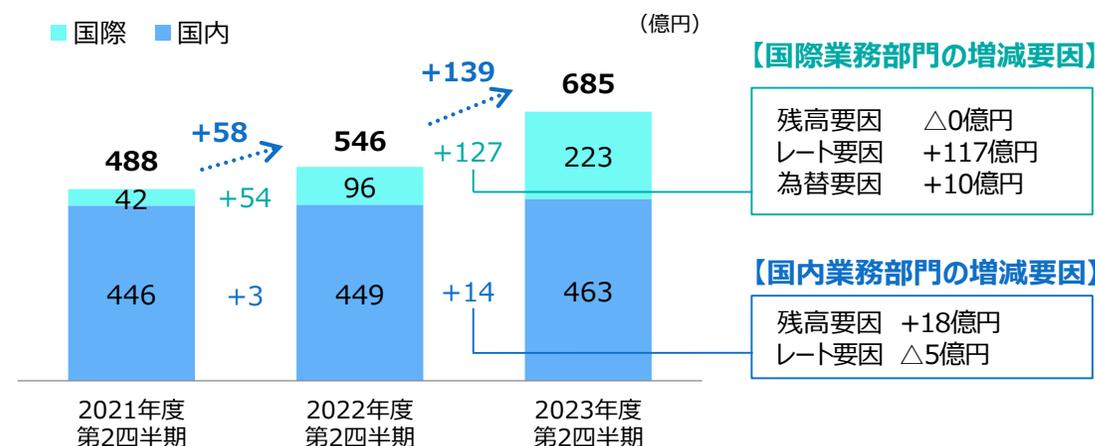
## 資金利益の内訳

(億円)	2021年度 第2四半期	2022年度 第2四半期	2023年度 第2四半期	前年同期比
<b>資金利益</b>	<b>618</b>	<b>622</b>	<b>627</b>	<b>+5</b>
国内業務部門	560	564	579	+15
貸出金利息	446	449	463	+14
有価証券利息配当金	112	109	116	+7
うち債券	9	18	43	+24
うち投信	24	7	4	△3
資金調達費用(△)	6	5	6	+2
うち預金等利息(△)	6	5	4	△1
その他	8	11	7	△4
国際業務部門	59	58	47	△11
貸出金利息	42	96	223	+127
有価証券利息配当金	41	64	125	+61
うち債券	23	38	122	+83
うち投信	10	8	0	△8
資金調達費用(△)	26	113	377	+263
うち預金等利息(△)	6	47	198	+151
その他	1	11	77	+66

## 貸出金残高 (平残)・利回り推移



## 貸出金利息の推移



# 貸出金（静岡銀行単体）

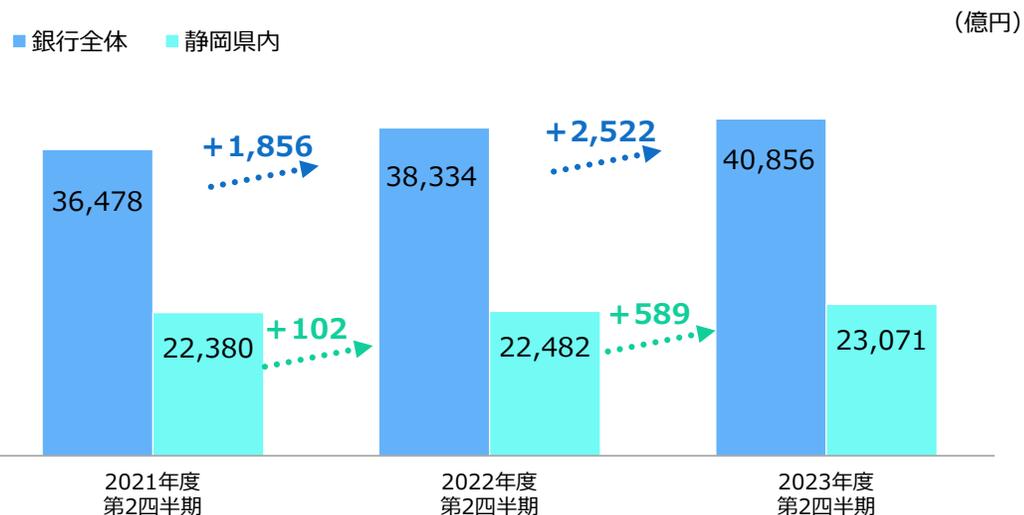
総貸出金残高（平残）は中小企業向け・消費者ローンを中心に増加（年率+4.1%）

## 貸出金残高（平残）

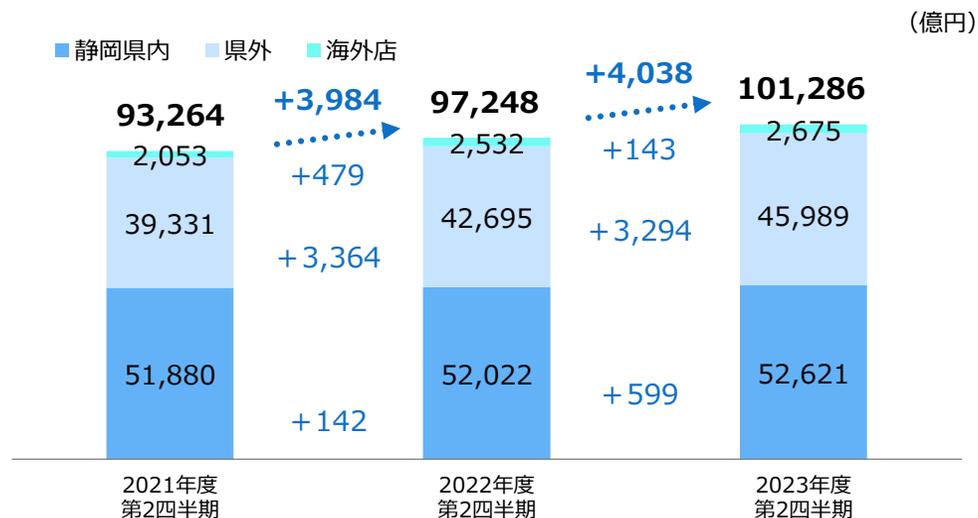
	2023年度 第2四半期	前年同期比 増加額	年率
総貸出金	10兆1,286億円	+4,038億円	+4.1%
中小企業向け貸出金	4兆856億円	+2,522億円	+6.5%
大・中堅企業向け貸出金	1兆8,707億円	+63億円	+0.3%
消費者ローン	3兆7,904億円	+1,440億円	+3.9%
外貨建貸出金	6,680億円	+268億円	+4.1%

残高要因 △20億円 為替要因 +288億円

## うち中小企業向け貸出金残高（平残）の推移



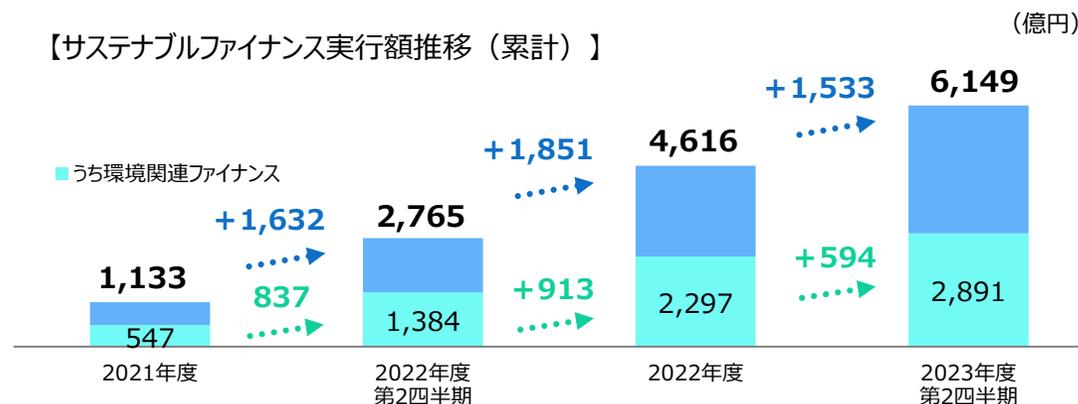
## 貸出金残高（地域別内訳）



## サステナブルファイナンスの推進

- 2030年度迄目標**2兆円**（うち環境関連ファイナンス**1兆円**）  
進捗率**30.7%**（同 **28.9%**）

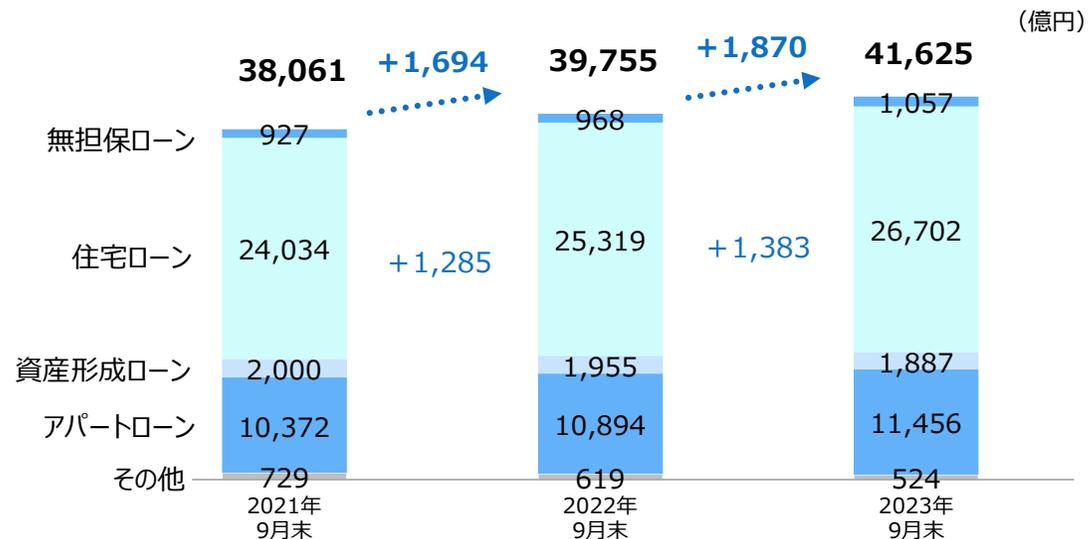
【サステナブルファイナンス実行額推移（累計）】



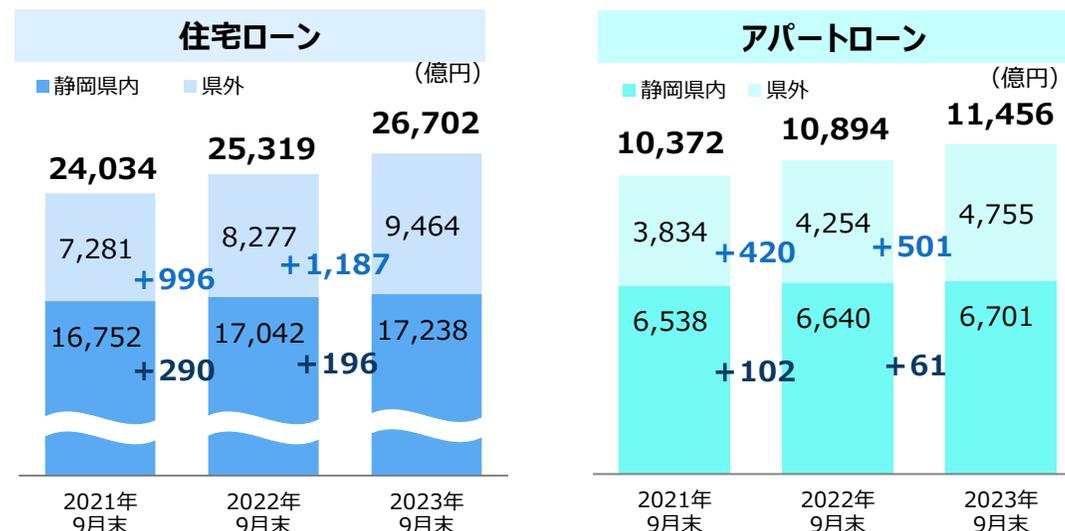
# 住宅ローン、アパートローン等（静岡銀行単体）

住宅ローン、アパートローン等残高は増加基調を維持。ローン関連手数料を含めた収入は前年同期比+15億円増加  
好調な資金需要を取り込むべく、首都圏での住宅関連ローンを推進する「立川ローンセンター」を新設

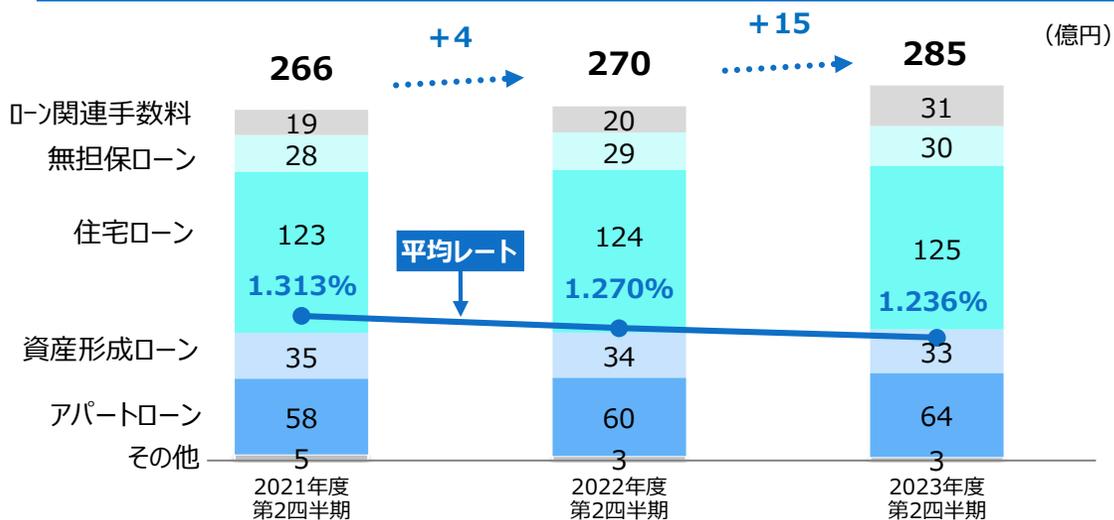
## 末残推移



## 住宅ローン・アパートローンの地域別残高(末残)



## 利息額、手数料およびレート推移



## 延滞率・入居率の状況

延滞率 (3か月以上)	2021年 9月末	2022年 9月末	2023年 9月末
住宅ローン	0.13%	0.10%	0.11%
アパートローン	0.16%	0.04%	0.03%
資産形成ローン	0.18%	0.43%	0.49%

賃貸用不動産入居率	2020年 12月末	2021年 12月末	2022年 12月末
静岡県内	92.5%	93.5%	94.0%
県外	93.3%	94.1%	95.1%

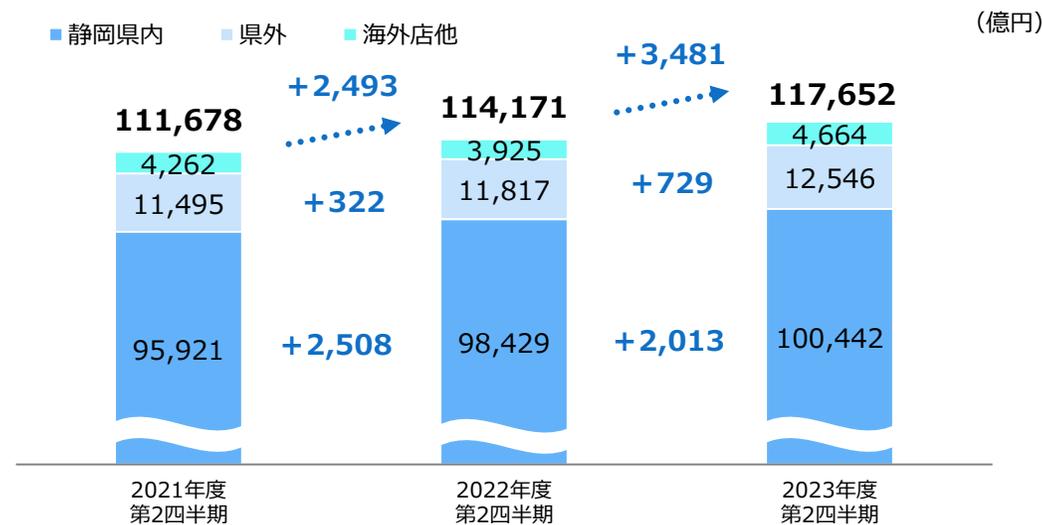
# 預金（静岡銀行単体）

総預金残高（平残）は、法人預金・個人預金ともに増加基調を維持（年率+3.0%）

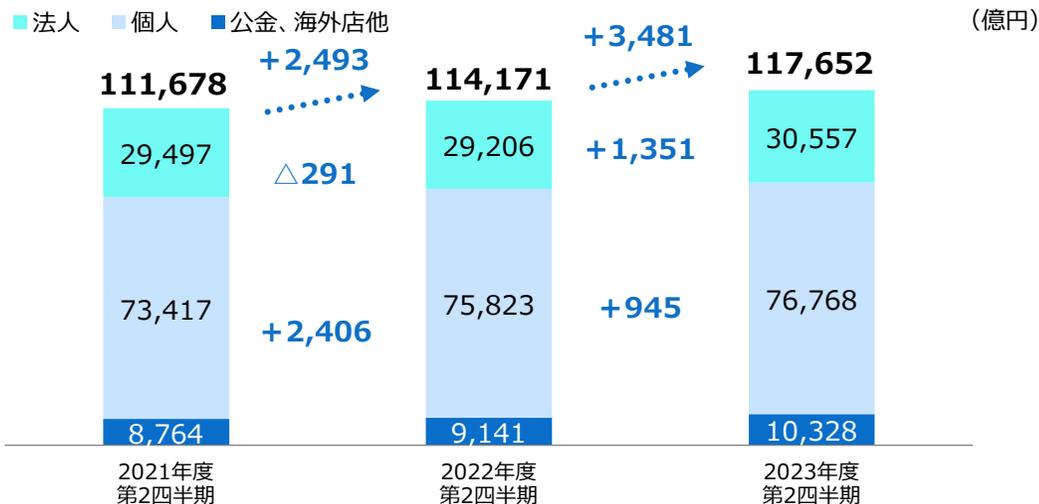
## 預金残高（平残）の推移

	2023年度 第2四半期	前年同期比 増加額	年率
総預金	11兆7,652億円	+3,481億円	+3.0%
静岡県内預金	10兆442億円	+2,013億円	+2.0%
法人預金	3兆557億円	+1,351億円	+4.6%
個人預金	7兆6,768億円	+945億円	+1.2%
公共預金	3,542億円	△24億円	△0.6%
譲渡性預金	1,377億円	+439億円	+46.7%

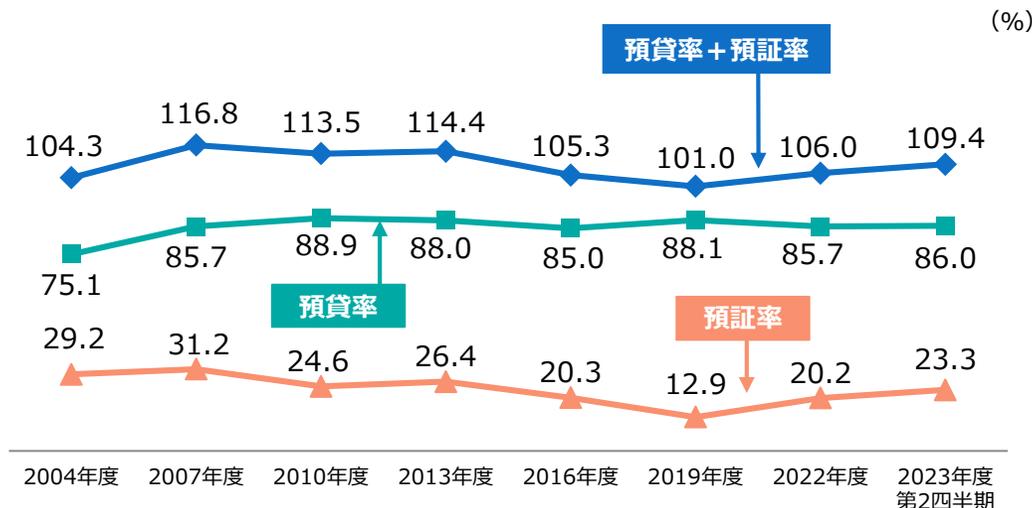
## 預金残高（地域別内訳）



## 預金残高（平残）



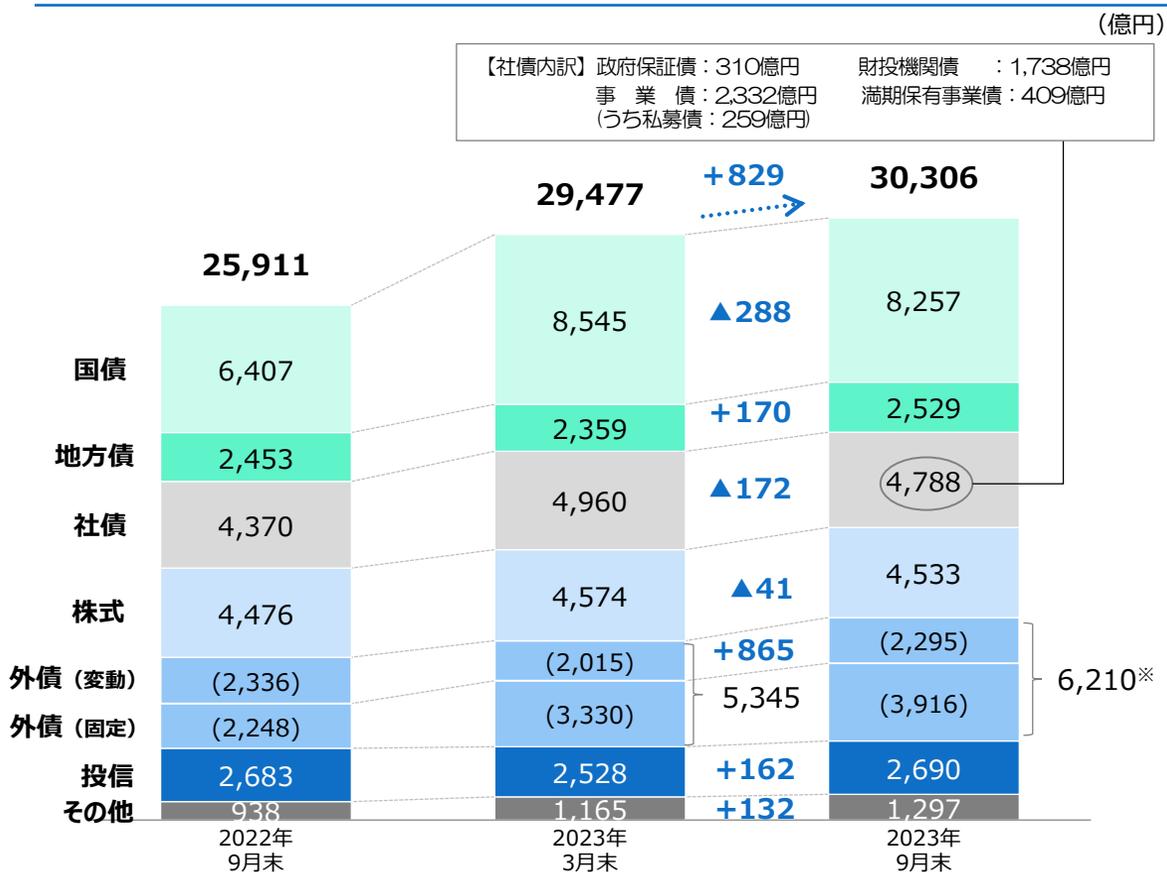
## 預貸率・預証率の推移（NCD除き）



# 有価証券（静岡銀行単体）

国内外の市場環境が大きく変化するなか、中長期な安定収益確保に向けて、ポートフォリオ全体の利回り改善に資する入替を実施  
有価証券全体では2,585億円の評価損益を維持

## 有価証券の状況



※2023年9月末残高には欧州静岡銀行からの移管分366億円を含む

〔平均残存期間（金利ヘッジ済分は除く）〕

※先物を除く

	2022年9月末	2023年3月末	2023年9月末
円債	6.40年	6.12年	7.34年
外債*	2.65年	2.48年	2.52年

## 有価証券関係損益

(億円)	2022年度 第2四半期	2023年度 第2四半期	前年同期比
有価証券利息配当金	172	240	+68
うち円債	18	43	+24
うち外債	38	122	+83
うち投信（うち解約損益）	15 (5)	4 (△5)	△11 (△10)
うち投資事業組合	35	8	△26
国債等債券関係損益	△73	22	+95
うち売却益	75	131	56
" 売却損・償還損(△)	148	109	△39
株式等関係損益	92	215	122
うち売却益	93	215	122
うち売却損・償却(△)	0	0	△0

## 有価証券評価損益の推移

(億円)	2022年 9月末	2023年 3月末	2023年 9月末	△/○考慮後	2023年 3月末比
有価証券評価損益	+2,737	+3,258	+2,585	+2,748	△672
株式	+3,194	+3,555	+3,549	-	△7
円債	△133	△99	△498	△480	△398
外債	△413	△325	△645	△501	△321
投信	△39	+2	+36	-	+34
投資事業組合等	+129	+125	+143	-	+19

# 役務取引等利益

役務取引等利益は、グループ機能の発揮によりコンサルティング手数料等が増加し、引き続き増加基調を維持

## 役務取引等利益

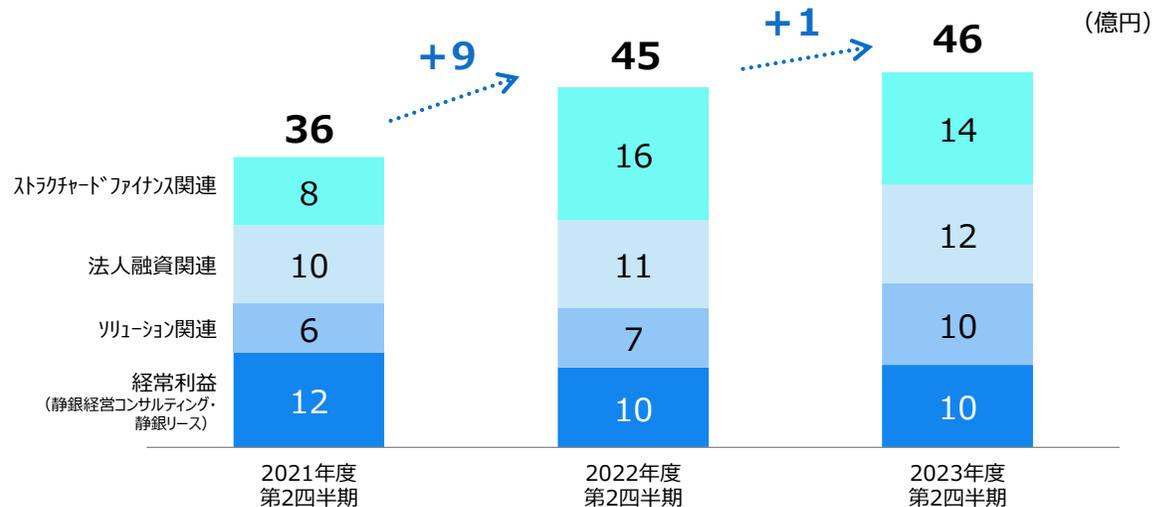
(億円)	2021年度 第2四半期	2022年度 第2四半期	2023年度 第2四半期	前年 同期比
【連結】役務取引等利益	157	191	222	+31
【静岡銀行単体】役務取引等利益	78	110	133	+22
役務取引等収益	159	171	190	+19
役務取引等費用(△)	81	61	57	△3※

※うち団信配当金増加による減少分△5億円

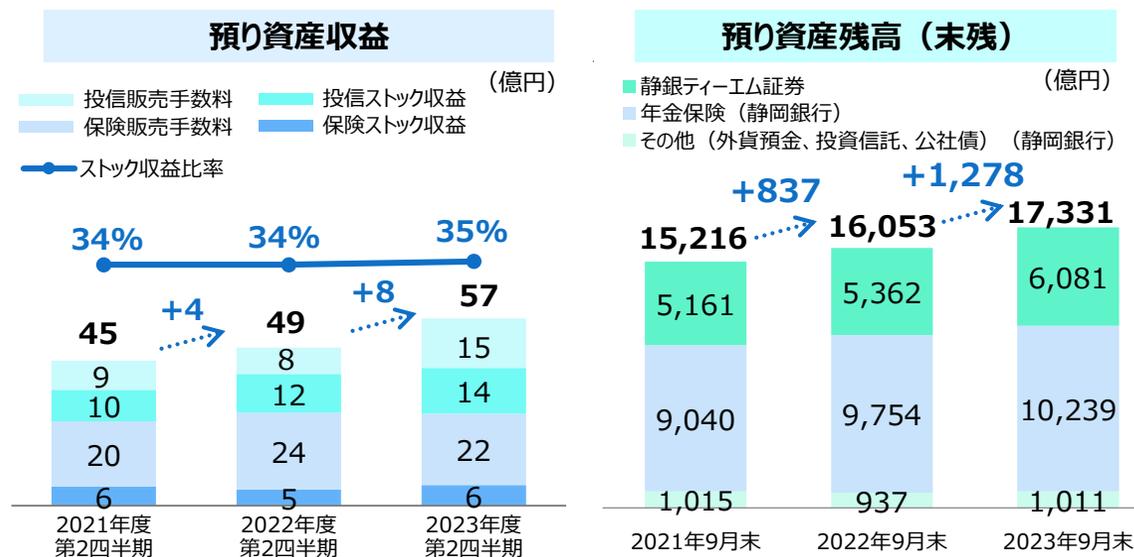
### 主要利益項目

法人営業関連	36	45	46	+1
ストラクチャードファイナンス関連	8	16	14	△3
法人融資関連(シンジケートローン等)	10	11	12	+1
ソリューション関連 (ビジネスマッチング、補助金支援等)	6	7	10	+3
静岡コンサルティング・静岡リース(経常利益)	12	10	10	+0
その他融資関連(住宅ローン取扱手数料等)	21	18	28	+10
預り資産関連	45	49	57	+8
静岡銀行(保険・投信)	27	30	29	△1
静岡ティーエム証券(投信)	17	19	28	+9
為替手数料(収支)	29	26	26	△1
【静岡銀行単体】特定取引利益	5	9	4	△5

## 法人関連収益(静岡銀行・静岡経営コンサルティング・静岡リース)

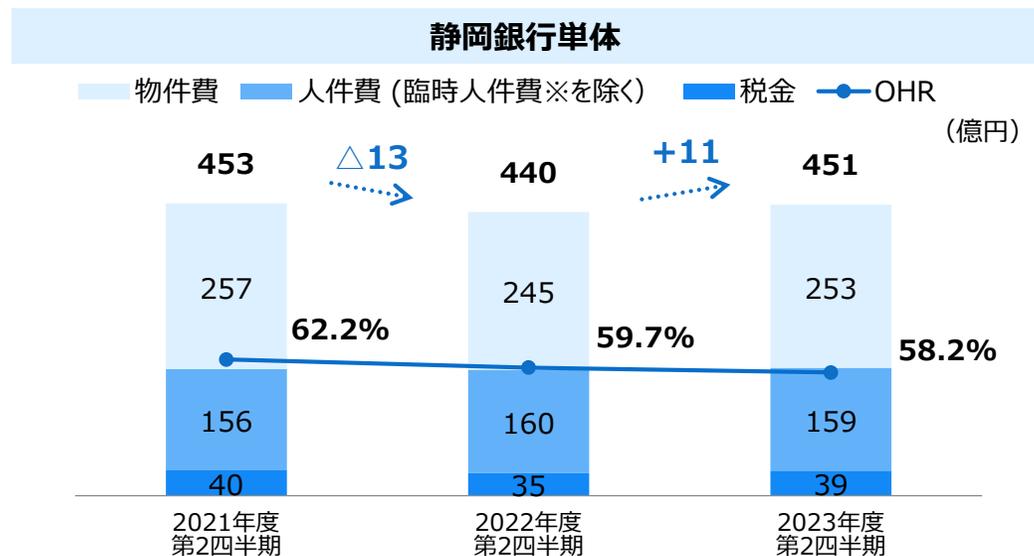
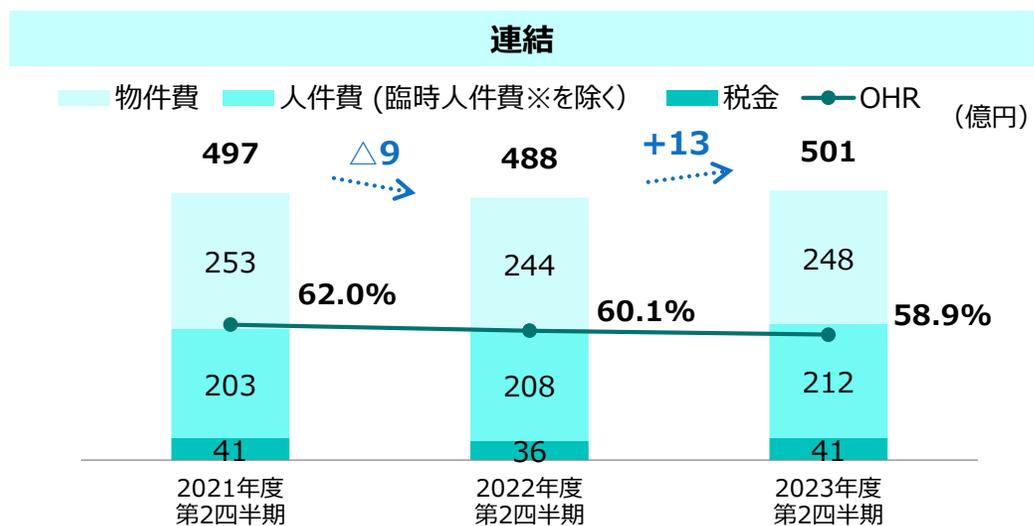


## 預り資産収益・残高(静岡銀行・静岡ティーエム証券)



経費全体は増加したものの、トップラインの伸長により連結OHRは58.9%（前年同期比△1.2pt）へと低下

## 経費およびOHRの推移



## 経費の主な増減要因

**連結**

	増減額	主な増減
物件費	+4億円	ソフトウェア利用料 +4億円
人件費	+4億円	ベースアップによる給与増加 +2億円
税金	+5億円	静岡銀行 +4億円 (消費税等)
<b>合計</b>	<b>+13億円</b>	

**静岡銀行単体**

	増減額	主な増減
物件費	+8億円	減価償却費△6億円 (固定資産評価見直し要因 △4億円) ソフトウェア利用料+4億円、SFGへの経営管理料+7億円
人件費	△1億円	給与等△1億円
税金	+4億円	消費税 +3億円
<b>合計</b>	<b>+11億円</b>	

固定資産評価見直しに伴う物件費への影響

	減少額
上半期 (実績)	△4億円
下半期 (見通し)	△26億円
<b>通期</b>	<b>△30億円</b>

※退職給付費用における数理計算上の差異償却額など

# 与信関係費用（静岡銀行単体）

## 与信関係費用全体で前年同期比減少、低水準で推移

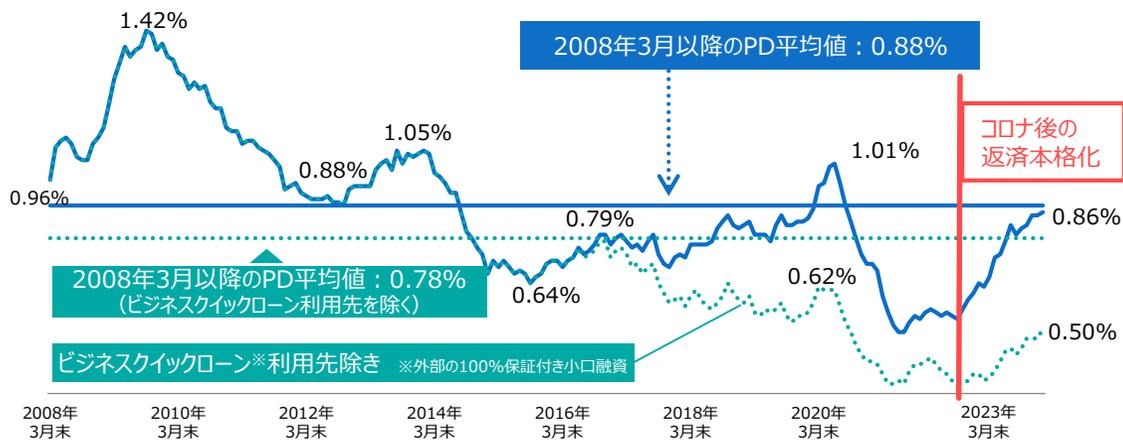
### 与信関係費用の内訳

(億円)	2021年度 第2四半期	2022年度 第2四半期	2023年度 第2四半期	前年 同期比
【連結】与信関係費用	37	42	22	△20
【静岡銀行単体】与信関係費用	30	39	16	△23
一般貸倒引当金繰入額	20	△14	△8	+6
個別貸倒引当金繰入額	9	51	22	△29
その他不良債権処理額 ※	1	2	2	+0

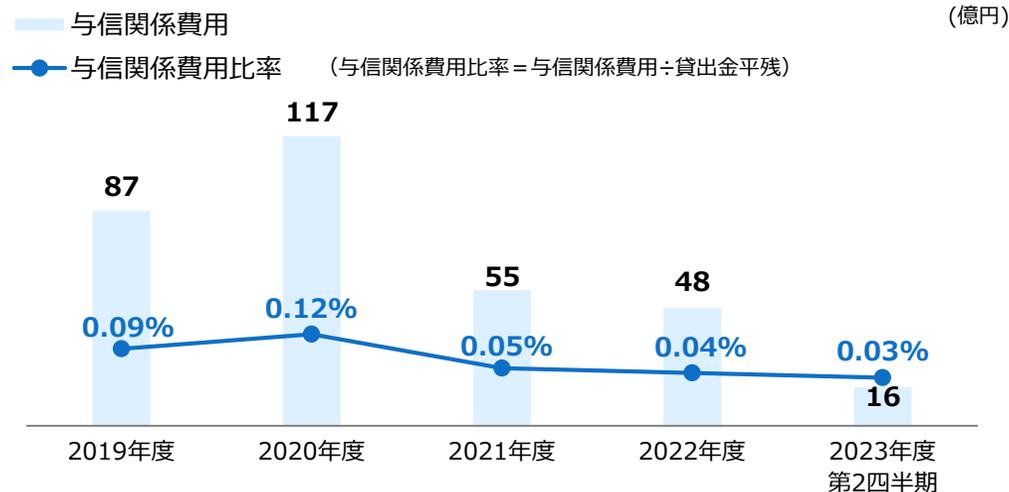
※ 信用保証協会負担金、偶発損失引当金繰入額、貸出債権等売却損などを含む

### デフォルト確率（PD）の推移

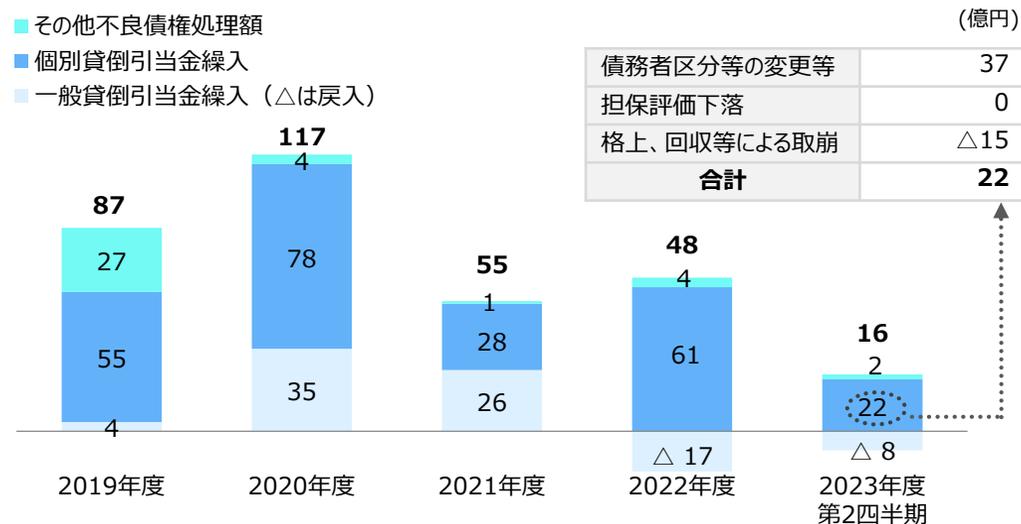
※正常先、要注意先のPD（先数ベース）



### 与信関係費用・与信関係費用比率の推移



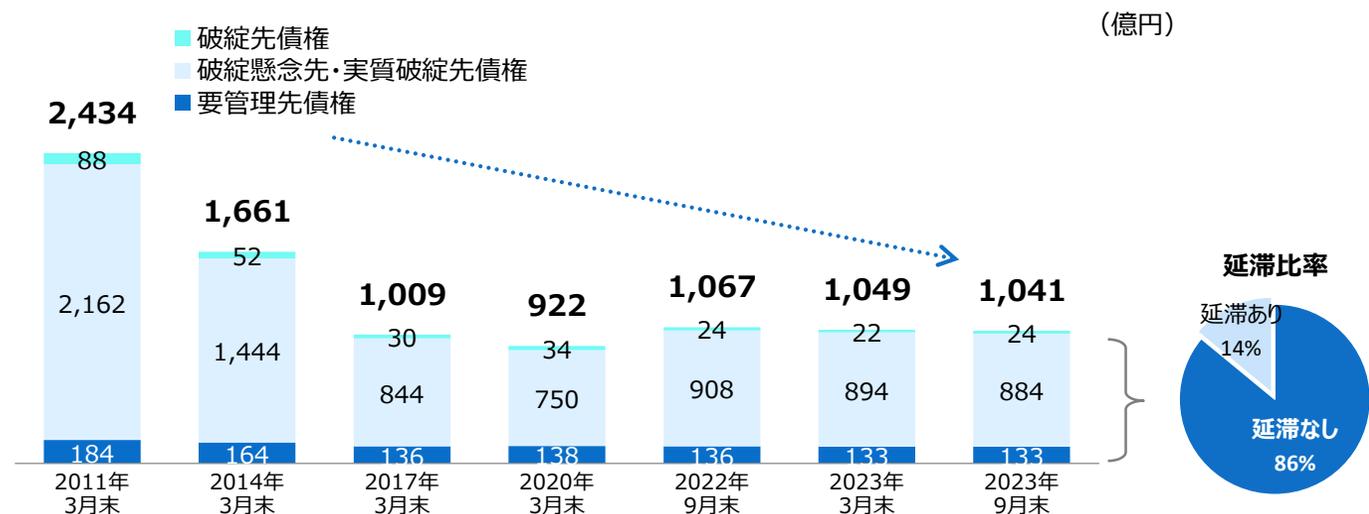
### 引当金繰入額およびその他不良債権処理額の推移



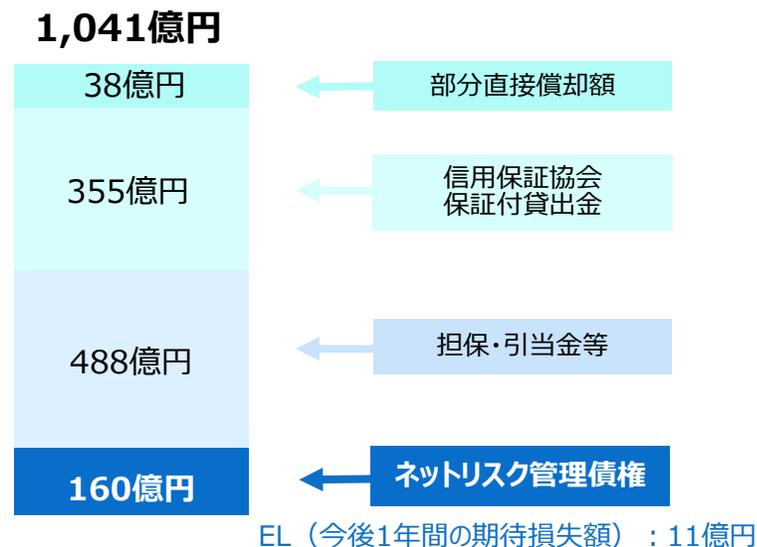
# リスク管理債権（金融再生法開示債権）（静岡銀行単体）

リスク管理債権は前年同期比減少し、リスク管理債権比率は低水準で推移

## リスク管理債権の推移



## ネットリスク管理債権



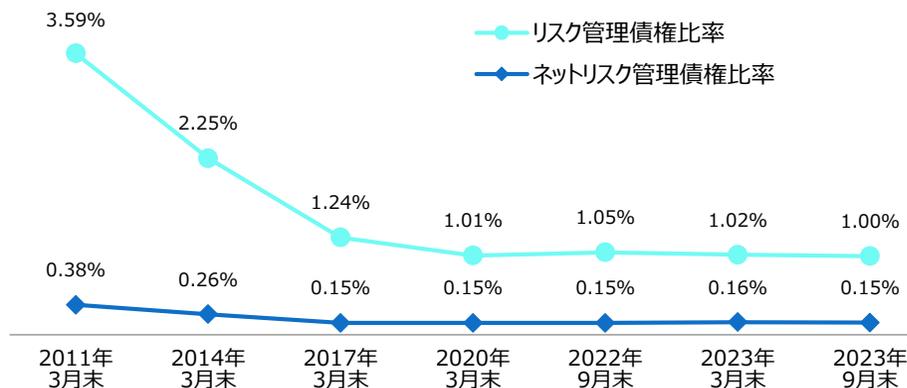
## 不良債権のオフバランス化実績

(億円)	2022年度	2023年度 第2四半期
新規発生	+345	+122
オフバランス化 (うち破綻懸念先以下)	△280 (△243)	△130 (△117)
リスク管理債権	1,049	1,041

△117億円の内訳

本人弁済・預金相殺	△19
担保処分・代位弁済	△57
債権売却・直接償却	△27
格上	△15

## リスク管理債権比率推移



# 自己資本比率

総自己資本比率およびCET1(普通株式等Tier1)比率は17.94% (2023年3月末比△0.48pt)

バーゼルⅢ最終化適用当初はリスク・アセット減少要因の影響が大きく、2023年9月末時点のバーゼルⅢ最終化の完全適用後の試算値は13.78%

## 自己資本比率



## 自己資本およびリスク・アセット等の推移

【バーゼルⅢ】	(億円)	2021年 3月末	2022年 3月末	2023年 3月末	2023年 9月末	2023年 3月末比
<b>自己資本※</b>		<b>9,904</b>	<b>9,654</b>	<b>10,061</b>	<b>9,816</b>	<b>△245</b>
CET1		9,904	9,654	10,061	9,816	△245
その他有価証券 評価差額金除き		7,592	7,716	7,782	8,017	+235
その他Tier1		—	—	—	—	—
Tier2		—	—	—	—	—
<b>リスク・アセット</b>		<b>59,797</b>	<b>60,012</b>	<b>54,593</b>	<b>54,712</b>	<b>+119</b>
信用リスク・アセットの額		56,580	56,721	52,836	52,877	+41
マーケット・リスク相当額に係る額		194	202	6	16	+11
オペレーショナル・リスク相当額に係る額		3,023	3,090	1,751	1,819	+67

※ 自己資本には、優先株式、劣後債等を含まない

## (参考) バーゼルⅢ最終化の影響

### 【主な影響】

#### ① 事業法人向け与信LGD※1設定値引下げ (金融当局設定値)

2022年3月	2023年3月	⇒リスク・アセットの減少要因
45%	40%	

#### ② スケーリングファクター※2の廃止 (金融当局設定による廃止)

2022年3月	2023年3月	⇒リスク・アセットの減少要因
1.06倍	(廃止)	

※1 デフォルト時損失率 (1-回収額) ※2 内部格付手法における信用リスク・アセット額に乗じる掛け目

#### ③ 資本フロア※3の段階適用 ⇒リスク・アセットの増加要因

2023年3月	2024年3月	2025年3月	2026年3月	2027年3月	2028年3月
50%	55%	60%	65%	70%	72.5%

⇒ 適用当初はフロア適用に至らず、2028年3月期にかけて段階的に引き上げられ、リスク・アセットが増加する見通し

※3 リスク・アセットの下限值

## 銀行勘定の金利リスク (IRRBB) (連結ベース 2023年9月末)

■ 重要性テスト結果: ΔEVE (Economic Value of Equity)  
(銀行勘定の金利リスクのうち、金利ショックに対する経済的価値の減少額)

経済的価値減少額	Tier1	重要性テスト結果(※)
<b>580億円</b>	<b>9,816億円</b>	<b>5.9% ≤ 15%</b>

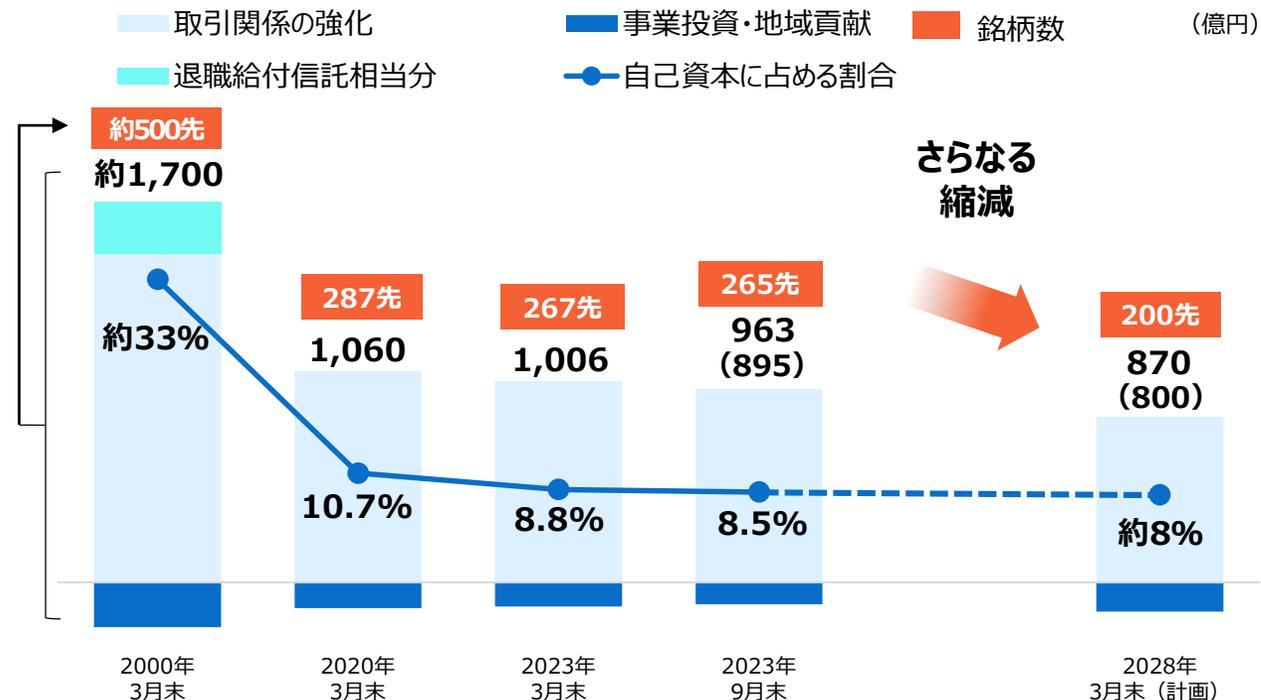
※金融庁監督指針によりΔEVEがTier1資本の15%以下であることが求められている

■ ΔNII (Net Interest Income) : **94億円**  
(銀行勘定の金利リスクのうち、金利ショックに対する金利収益の減少額)

# 政策投資株式

第1次中計期間の縮減目標136億円に対し、2023年度上半期は43億円を縮減（進捗率 31.6%）  
 政策投資株式は縮減を基本方針として継続的に売却を進め、売却益は戦略的投資に活用

## 政策投資株式取得原価の推移 ※（）内は上場株式



※ グループ会社および持分法適用関連会社の株式を除く

### 【政策投資株式の縮減状況】

期間	第14次中計実績 (2020~2022年度)	第1次中計目標 (2023~2027年度)	2023年度 上半期 (実績)	進捗率
縮減額 《取得原価ベース》	54	136	43	31.6%
売却額	383	—	236	—
売却損益	287	—	201	—

## 売却応諾先の状況

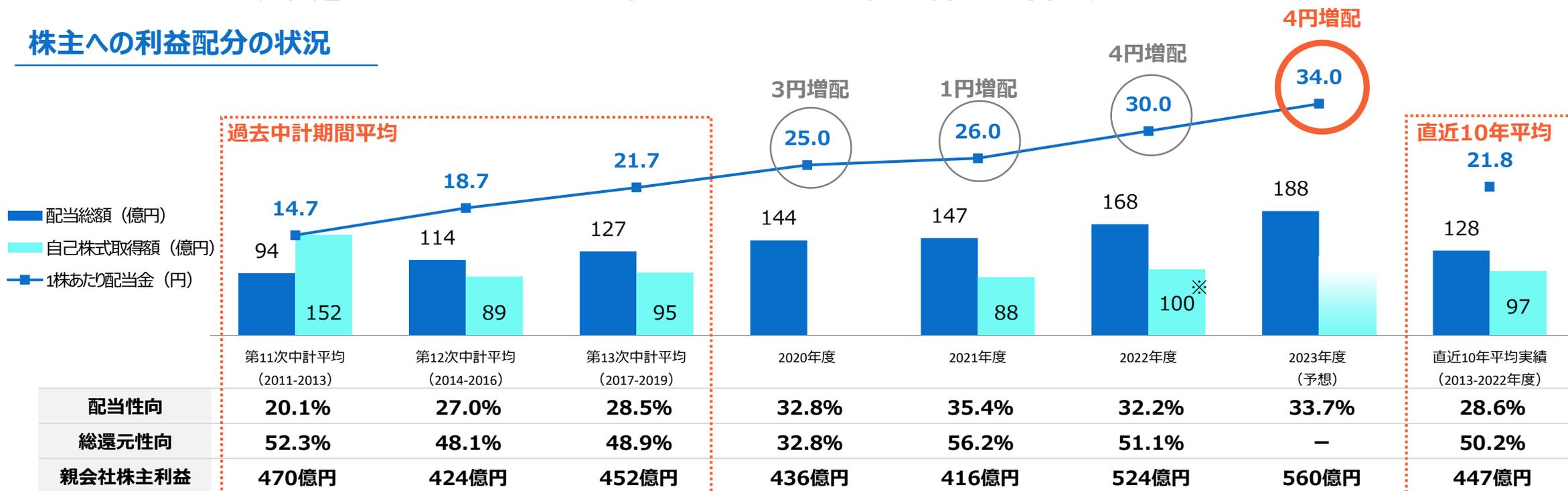
(先、億円)	2023年 3月末	2023年 9月末	増減
銘柄数	27	27	—
売却応諾額	486	557	+ 71
取得原価ベース	121	134	+ 13
評価損益	366	424	+ 58

- 売却益は、**人的資本、DX、新事業等の戦略的投資**に活用
- 株式売却に伴うリスクアセットの減少分は、ベンチャー・PE投資等**収益性の高い分野へ再投資**

# 株主還元

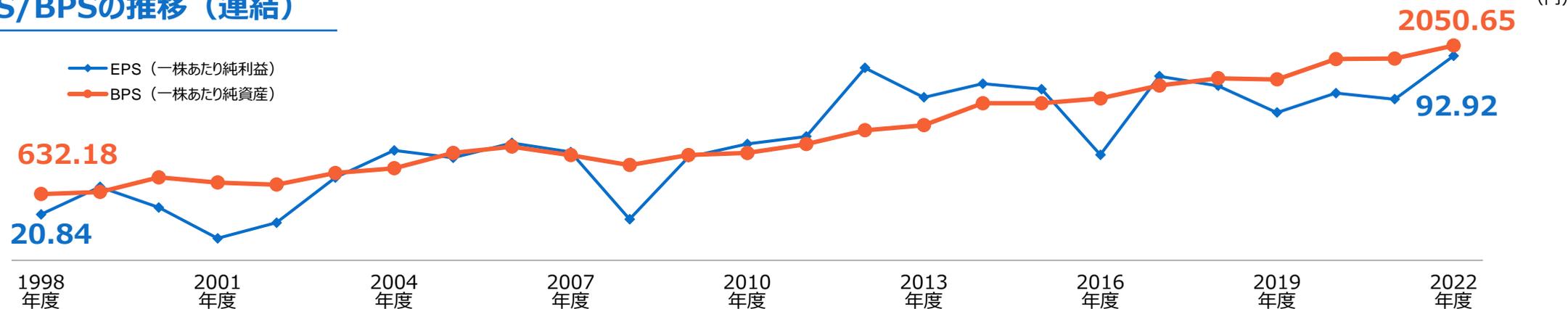
2027年度までに「配当性向40%以上」への累進的な引き上げを目指すとともに、自己株式取得は株価を含めた市場環境等を踏まえ機動的に実施していく。総還元を意識しつつ、ROEおよびEPS、BPSの持続的な向上を目指す

## 株主への利益配分の状況



※2022年度株主還元実績には、実施済の自己株式取得（金額：100億円、期間：2023年2月～5月）を含む

## EPS/BPSの推移（連結）



# 2023年度業績予想

2023年9月に実施した固定資産評価見直しに伴う損益面への影響等を踏まえ、業績予想の見直しを実施  
連結ベースで経常利益980億円（当初計画+180億円）、当期純利益560億円（当初計画通り）を見込む

（億円）

	2022年度 実績	2023年度 当初予想 (A)	2023年度 修正予想 (B)	増減 (B-A)	2023年度	進捗率	
					第2四半期 実績 (C)	(C/B)	
連 結	経常利益	740	800	980	+180	554	56.5%
	親会社株主に帰属する 当期純利益	524	560	560	-	248	44.2%
	ROE	4.6%	5.0%	5.0%	-	4.3%	-
	OHR	60.2%	58.3%	58.3%	-	58.9%	-
	CET1比率	18.42% (14.17%)	17.14% (13.44%)	17.14% (13.44%)	-	17.94% (13.78%)	-
静 岡 銀 行 単 体	業務粗利益	1,443	1,510	1,510	-	774	51.2%
	資金利益	1,216	1,250	1,260	+10	627	49.7%
	役務取引等利益	211	215	225	+10	133	58.9%
	特定取引利益	14	15	10	△5	4	41.0%
	その他業務利益	2	30	15	△15	11	74.2%
	経費 (△)	869	890	860	△30	451	52.4%
	経常利益	676	710	890	+180	525	58.9%
	当期純利益	462	490	490	-	220	44.9%
	与信関係費用 (△)	48	40	40	-	16	39.3%



## 4月

- 第1次中期経営計画  
「Xover -新時代を拓く」スタート  
(しずおかFG)

**Xover**  
- 新時代を拓く

- カーリースサービス「富士山で乗る」の  
提供開始 (静岡リース)



- SDGsの推進に向けた、日本政策金融公庫  
との「協調融資スキーム」第1号を実行  
(静岡銀行)

- 法人・個人事業者向けデジタル化支援サービス  
「静岡銀行Mikatanoワークス」の提供開始  
(静岡銀行)



- 初任給の引上げを公表 (しずおかFG)

## 5月

- 「地域の魅力発見プロジェクト」の実施  
(静岡銀行)



- アライアンス行との共同開発  
による個人年金保険  
「じぶん年金☆介護プラス」  
の取扱開始 (静岡銀行)



- 静岡リース・地域企業3社と中古車流通に  
向けた営業連携に関する「パートナーシップ  
協定」を締結 (静岡リース)

- グループ全役職員を対象とするベースアップを  
公表 (しずおかFG)

## 6月

- 「立川ローンセンター」オープン (静岡銀行)



- 各地区カンパニー (東部・中部・西部) に  
「地域共創戦略専担責任者」を配置  
(静岡銀行)

- 「静岡・名古屋アライアンスファンド」設立  
(静岡キャピタル)

- 「カーボンオフセットオートリース」の提供を  
開始 (静岡リース)



- メタバース環境におけるインターネット支店  
「メタテラス」出店の実証実験を開始  
(静岡銀行)



地域共創戦略  
×  
グループビジネス  
戦略

トランスフォーメーション  
戦略



## 7月

- 持株会社体制で初となる新会社「SFGマーケティング」設立



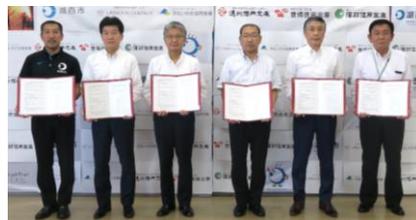
- 浜松市と「カーボンニュートラルに関する連携協定」を締結（しずおかFG）
- 環境省「令和5年度ESG地域金融促進事業」の採択（静岡銀行）
- 「TECH BEAT Shizuoka2023」の開催（静岡銀行）



- 「マネーフォワードケッサイ」と業務提携契約を締結（静岡キャピタル）
- PKSHA Workplaceと生成「AI」の活用に向けた共同研究等を開始（静岡銀行）

## 8月

- 湖西市と「カーボンニュートラル推進に向けた相互協力及び連携に関する協定」を締結（しずおかFG）



- 地方銀行7行と「自動車産業支援の高度化に向けた覚書」を締結（静岡銀行）
- JCBブランドの法人カードの取扱いを開始（静岡カード）

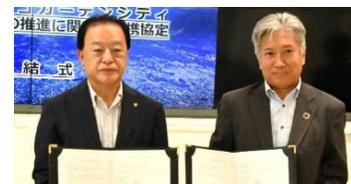


<一般カード> <ゴールドカード> <プラチナカード>

- 「しずぎんデジタル」の提供開始（静岡銀行）

## 9月

- 御殿場市と「富士山東麓エコガーデンシティ地域循環共生圏の推進に関する連携協定書」を締結（しずおかFG）



- W TOKYOと地方創生事業の推進に関する連携協定を締結（静岡銀行）



- 事業者向けポータルサイトの新機能「しずぎんWEB当座貸越サービス」「電子交付サービス」の提供開始（静岡銀行）

- 2023年10月「入社式」及び2024年度「内定通知書交付式」を開催（しずおかFG）

## 10月

- 「静岡ティーエム証券 名古屋本店」オープン（静岡ティーエム証券）



- 「しずおかGXサポート」の取扱開始（静岡銀行）
- 「しずぎんソーラーパーク」運転開始（静岡銀行）

- 静岡、愛知、山梨に拠点を有する企業を投資対象とする「3県未来ファンド」の取扱開始（静岡ティーエム証券）



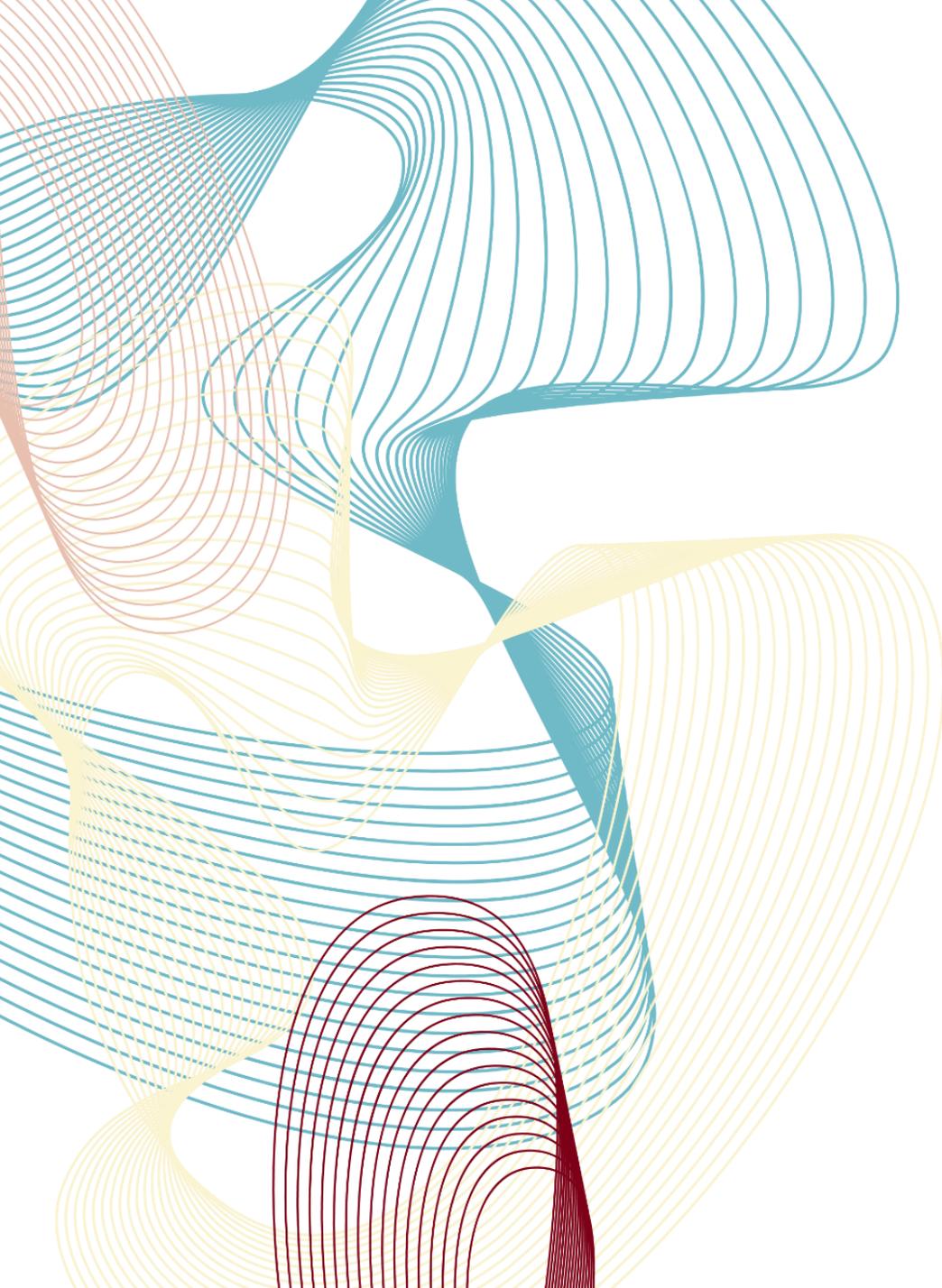
- 「CIMB Bank Berhad」（マレーシア）との業務提携契約を締結（静岡銀行）

- 東京証券取引所の「カーボンクレジット市場」に参加（静岡リース）

※静岡銀行が2023年12月に参加予定

地域共創戦略  
×  
グループビジネス  
戦略

トランスフォーメーション  
戦略



**本資料には、将来の業績に関わる記述が含まれています。**

**こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。**

**将来の業績は、経営環境の変化などにより、目標対比異なる可能性があることにご留意ください。**

※本資料の金額等は原則として単位未満を四捨五入しています。また、グラフにおける前年同期比の数値の記載は表上で計算しています。

### **本件に関するご照会先**

株式会社 しずおかフィナンシャルグループ 経営企画部 経営企画室 おくもと 納本

T E L : 054-261-3111 (代表)      054-345-9161 (直通)

F A X : 054-344-0131

E - m a i l : [ir@jp.shizugin.com](mailto:ir@jp.shizugin.com)   U R L : <https://www.shizuoka-fg.co.jp/>

しずおかフィナンシャルグループ  
Webサイト〔IRニュース〕

